

令和 5 年度 医療・介護連携における情報共有ツールの活用状況について

1. アンケート調査実施の概要について

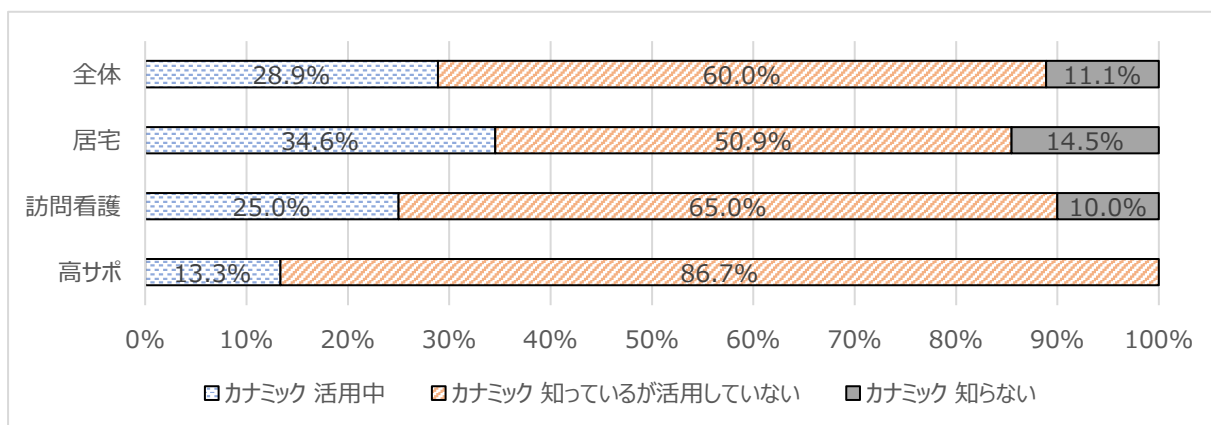
実施時期 令和 6 年 3 月

回答数

居宅介護事業所	40 ヶ所
訪問看護ステーション	20 ヶ所
高齢者サポートセンター	15 ヶ所

2. 活用状況に関するアンケート結果について

(1) 多職種連携地域包括ケアシステム（株式会社カナミックネットワーク）



【活用していない理由】

■ 居宅介護支援事業所

- ・該当者がいない。機会がない。
- ・限定された病院や医院との連携に限られてしまう。
- ・自社で別のソフトを使用している。
- ・医師が必要と判断した時のみの利用。
- ・手間が多い。ラインやメールの方が簡単。ログインしないと見られず使い勝手が悪い。
- ・医師の投稿にすぐにコメントしないと、と思うと負担が大きい。

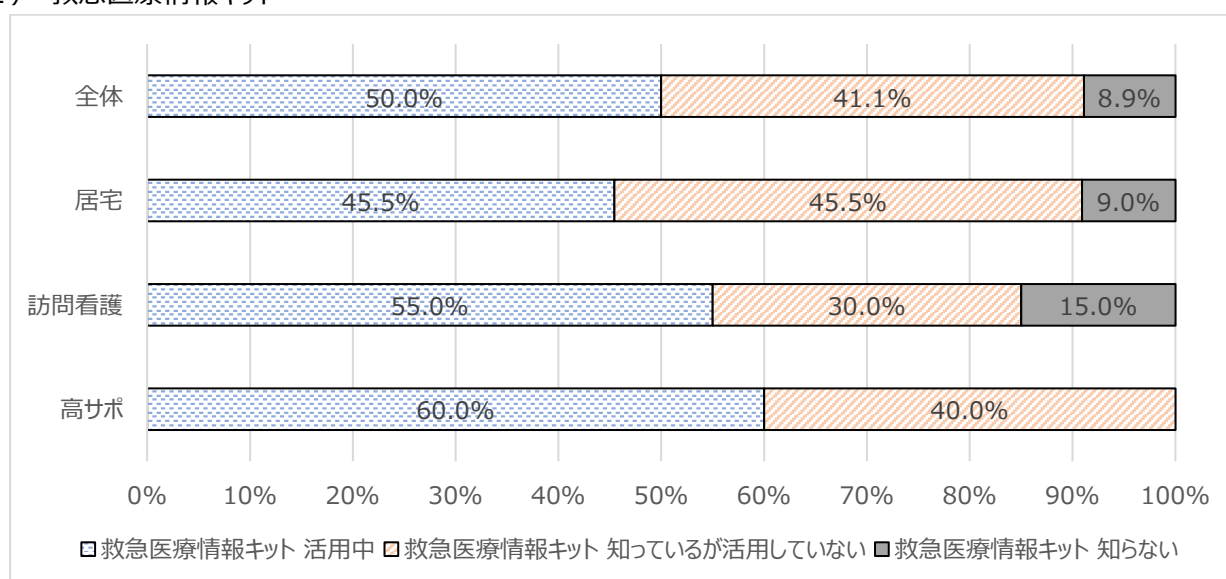
■ 訪問看護事業所

- ・時間がかかる。電話の方が早い。
- ・医師やケアマネから他の手段を指定された。

■ 高齢者サポートセンター

- ・利用している医療機関が少ない。利用している医療機関や事業所が限られる。
- ・利用の機会がない。使い方が分からない。
- ・迅速な対応が必要だったため、電話でのやりとりを行った。

(2) 救急医療情報キット



【活用していない理由】

■ 居宅介護支援事業所

- ・対応の時間が取れない。手が回らない。手続きが面倒。
- ・不要と言われたり、保管が困難な場合がある。
- ・他の手段で対応できている。

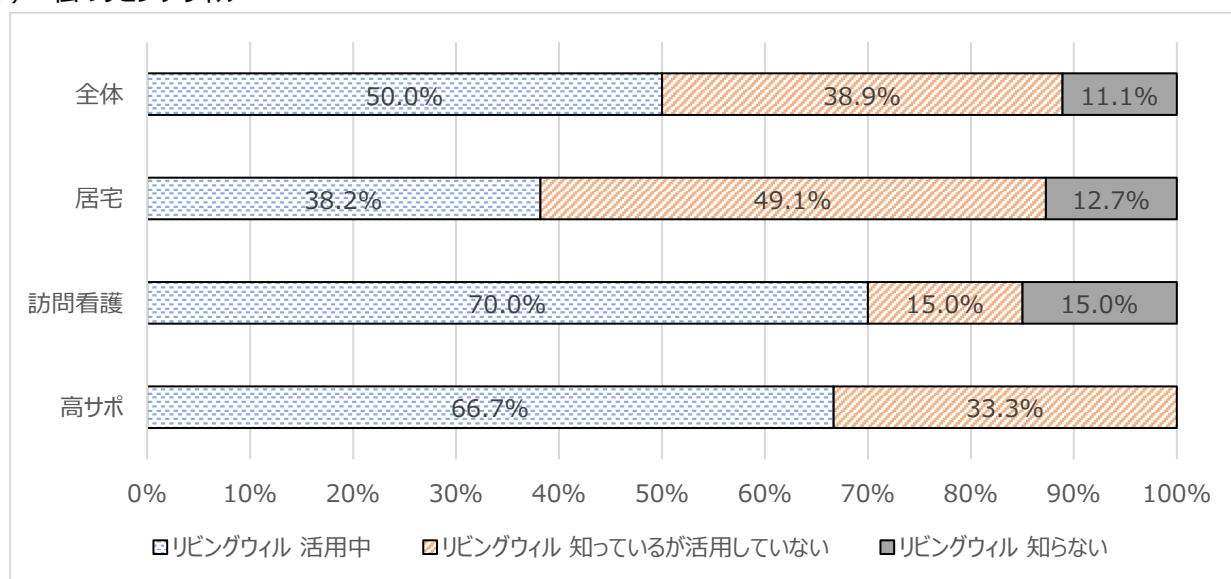
■ 訪問看護事業所

- ・該当者がいない。必要性がない。
- ・管理が困難。
- ・利用はしているものの、正しく使えているか、実際に役に立っているのかは不明。

■ 高齢者サポートセンター

- ・対象者の条件が変わったことを知らず活用していなかった。
- ・申請をしないと配布できないため使い勝手が悪い。
- ・情報を更新することに負担を感じる。
- ・相手が必要性を感じてくれない。同意の書類記入に抵抗感がある。
- ・救急隊から存在を確認されないことがない。

(3) 私のリビングウィル



【活用していない理由】

■ 居宅介護支援事業所

- ・医師や看護師に任せている。
- ・タイミングが難しい。
- ・説明しても相手が理解することが難しい（医療処置の項目）。

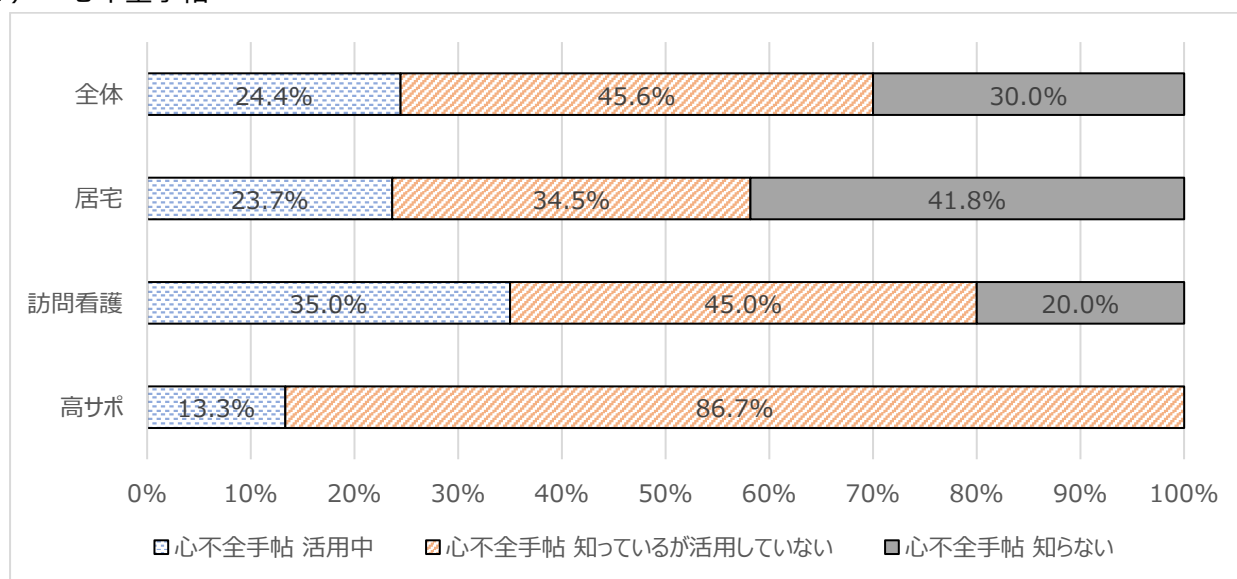
■ 訪問看護事業所

- ・使用しなくても情報共有ができています。
- ・お看取りまでの期間が短い等、タイミングが難しい（お看取りまでの時間が短い、状況の変化がある等）。
- ・クリニックによっては独自のものを使用されている。

■ 高齢者サポートセンター

- ・事例がない。機会がない。
- ・医療（訪問診療、訪問看護）から提案することが主なため。
- ・他の書式を利用している。

(4) 心不全手帖



【活用していない理由】

■ 居宅介護支援事業所

- ・利用の機会がない。
- ・どこでもらえるのか知らない。
- ・利用者が所持していることは把握しているが、情報共有ツールとしては活用していない。

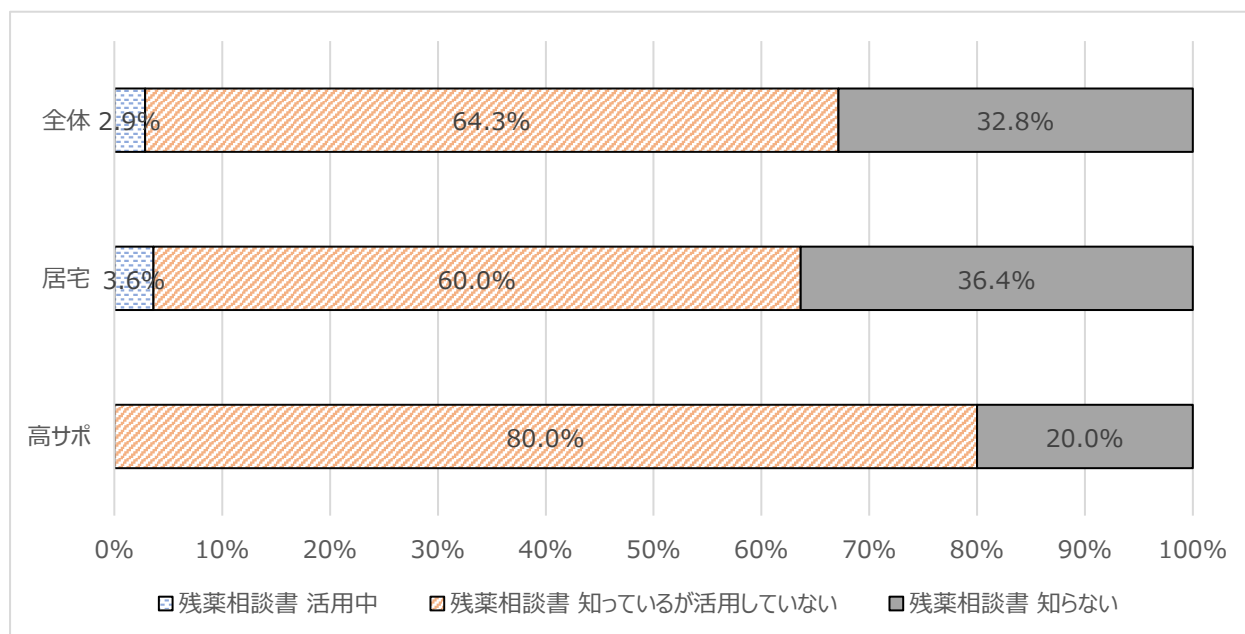
■ 訪問看護事業所

- ・対象者がいない。
- ・管理が困難。

■ 高齢者サポートセンター

- ・機会がない。対象者がいない。必要な人は受診先からなんらかの物をもらっている。
- ・活用の仕方、タイミングが分からない。

(5) 残薬相談書



【活用していない理由】

■ 居宅介護支援事業所

- ・直接電話をしている。
- ・活用方法が分からない。
- ・居宅療養管理指導により管理されているため。
- ・本人が困っておらず、費用負担がかかる可能性がある場合は積極的に利用しにくい。

■ 高齢者サポートセンター

- ・機会がない。該当者がいない。
- ・制約があり使いにくい。
- ・活用のタイミングが分からない。
- ・活用しようと思い問い合わせたが、「対応できない」と言われた。薬局側が知らなかった。

（６）その他

■居宅介護支援事業所

- ・活用はしたいが方法が分からない。また、費用が気になる。
- ・情報量が多く、取り扱いが難しい。管理が一元化される仕組みがあるとよい。
- ・活用事例、活用のメリットが知りたい。
- ・カナミックに関しては、医師が積極的に参加してくださる場合はとても連携が取りやすくなる。
- ・ツールがあっても知らずに活用できていないものもある。広めるための活動が必要なのでは。

■高齢者サポートセンター

- ・職員の入れ替わりがあるため単発的な周知では活用できない。業務マニュアルに記載して欲しい。
- ・使い方を知らないものもある。活用方法や好事例を紹介してほしい。
- ・市からの発信が弱い。書式等の情報になかなかたどり着かないため、検索時にヒットしやすいキーワードを検討したかどうか。
- ・救急医療情報キットは存在を知らない市民、ケアマネ等が多い。市が一人暮らし世帯などに積極的に配布するなど、仕掛けが必要ではないか。もう少し小さい容器だと良いかもしれない。救急隊員もこのツールの存在を把握しているのか不明。